

地球環境とともに

エネルギー使用量の削減

日清医療食品は、次世代の人々に美しい地球環境というバトンをつなぐために、一人ひとりの環境意識を高めるとともに、身近な取り組みから継続的に環境負荷を低減していくことを基本方針として環境活動を推進しています。なかでも、省エネルギーに関しては、2010年4月から完全施行された改正省エネ法において「特定事業者」の指定を受けたことから、2011年9月、総務本部長を委員長にセントラルキッチン部や総務、広報部門の担当者で構成される「エコ推進委員会」を立ち上げ、エネルギー使用の適正化を通じて5年間で毎年1%ずつ、5%以上使用量を削減する5ヵ年計画を立案しました。



エコ推進委員会

エネルギー使用合理化期待効果の5ヵ年計画

日清医療食品では、エネルギー使用量の削減目標を達成するために、エネルギー使用量が高いセントラルキッチン部内の5ヵ所のヘルスケアフードサービスセンターのチューニング(機械などの使い方を調整し、最適な状態にする、などの施策)を順次進めています。また、自動販売機の省エネタイプへの変更や照明のLED化の検討など、既存設備の見直しを進めています。これらの計画は、毎年、実績や効果などを踏まえて見直しています。

各拠点でのエネルギー使用量の推移

	2010年度		2011年度		エネルギー使用量 昨年対比
	エネルギー使用量 (原油換算KL)	構成割合	エネルギー使用量 (原油換算KL)	構成割合	
本社支店	318	20.6%	286	19.1%	90%
ヘルスケア フードサービス センター	1,160	75.0%	1,120	74.7%	97%
旧東北ライス センター	68	4.4%	93	6.2%	137%
合計	1,546	100.0%	1,499	100.0%	97%

5ヵ年計画内容

内容	実施予定期間
● チューニング(全工場)	2012～2014年
● マルチヒートポンプシステム導入	2014～2015年
● 高効率パッケージ空調機の導入	2014～2015年
● ヒートポンプ式乾燥設備の導入	2014～2015年
● 送風機のインバーター制御導入	2014～2015年
● エレベータのインバーター制御導入	2014～2015年
● 太陽光発電設備の導入	2013～2014年
● 全熱交換器の導入	2014～2015年
● 受電設備の力率改善	2012～2013年
● 太陽熱利用設備の導入	2013～2014年
● 導線変更によるゾーニング強化	2012年
● ファンベルトの省エネへの交換	2012～2013年
● 急騰温水配管の保温強化	2012年

2012年度の活動報告

■ヘルスケアフードサービスセンターでの省エネ推進の取り組み

エネルギー使用量が高いヘルスケアフードサービスセンターの省エネを推進していくために、以下のような取り組みを進めました。

□空調設備の稼働時間・温度設定

使用量の高い空調設備の稼働時間の見直し(稼働時間前の空調設定や、四季に合わせた使用状況の変更など)

□既存機器のメンテナンス方法の見直し・適正化

夏と冬のメンテナンス回数を、利用状況に応じた適切なメンテナンス回数に変更することで省エネを推進

□夏季の打ち水

外調機の周辺に水をまき、外気の温度を下げることで節電を実施



夏季の打ち水

エコサス(ECO-SAS)の導入

日清医療食品は、2012年4月から、パナソニック株式会社が提供する「エコサス(ECO-SAS)」を用いたエネルギー使用状況の管理・分析を本格的に開始しています。各地のヘルスケアフードサービスセンターのエネルギー使用量を過去2年間にさかのぼってエコサスに入力。一食あたりのエネルギー使用量を把握しながら設備機器のチューニングを推進しています。このシステムを用いて、これまで空調機器の運用改善や乾燥機の稼働回数の削減などを実施。これらの成果は「エコ推進委員会」で共有しています。また、エコサスを用いることで、国や自治体の法令に則した報告書や計画書の作成も効率化しています。日清医療食品は、これらの取り組みを今後は全国のご契約先事業所でも展開できるよう、社内報でイラストなどを用いてわかりやすく活動を紹介、啓発に努めていきます。



エコ推進活動をイラストで紹介

■活動評価を外部コンサルタントに要請

2012年3月、エコ推進委員会の活動のコンサルティングをしていただいているエコエナジー(株)代表取締役の伊藤智教様から、2011年度の取り組みに関して以下のような評価を頂戴しました。



エコエナジー株式会社
代表取締役
伊藤 智教 様
いとう としか

評価するポイント

□目標とする原単位での削減が10倍以上のスピードで進んだ。

□他のヘルスケアフードサービスセンターが先行する2つのセントラルキッチンの事例を刺激として活用している。また、さらに一歩進んだ管理を始めているセンターや社員の提案が出てきているセンターがある。

□そうしたすばらしい芽を取り上げて評価し、発信する委員会ができた。

□エコ推進委員会の委員としての自覚が芽生え、自主的に省エネ運転方法を調査し、発表するなどの行動が始まった。

□「これって節電になるの?」という意見や質問までも汲みあげ、知見を共有することができるようになった。

□大切であるが、どの会社も上手にできない内部コミュニケーション(社内報)と外部コミュニケーション(HP発信)がすばらしい。

※原単位：1ヵ月の電気使用量を、1ヵ月の食数で割った値

次期エコ推進委員会で改善を進めたいポイント

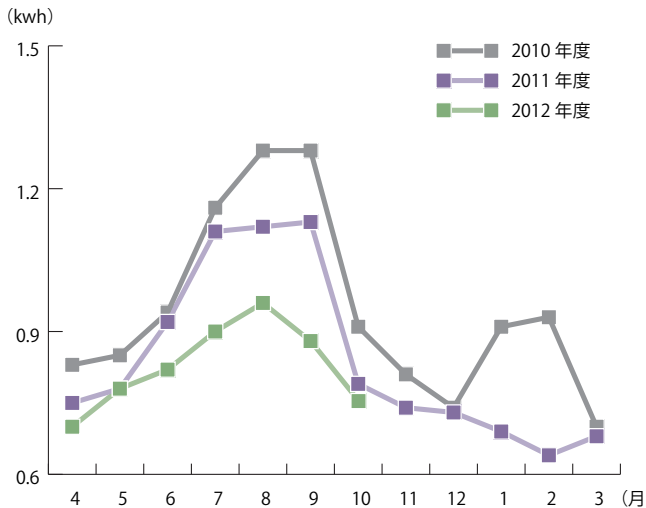
□当初、ヘルスケアフードサービスセンターの活動要員として3名配置するよう要請したが、業務の都合上、センター長のみとなり、アシスト役を置くことができなかった。

□2011年度は岩槻・名古屋のヘルスケアフードサービスセンターにて各1回、全体講習を行いエコの重要性や省エネの面白さについて気づきを与えられた。この成果を踏まえて、2012年度以降はセンターの社員が効果を「ワイガヤ」で楽しく検証できるように進めてほしい。こうした活動によって、3年目以降では自ら原単位での削減目標を設定し、エコ活動を企画立案し、行動検証できる、考える組織への変貌を目指すことができると信じている。

□「エコ推進委員会のメンバーになりたい」と手を上げてくる人が各センターに広がり、提案が次々出てくることで最適化が進み、新たなイノベーションが起きる職場環境づくりに努めてほしい。

ヘルスケアフードサービスセンターでの原単位推移表

●ヘルスケアフードサービスセンター岩槻



●ヘルスケアフードサービスセンター名古屋

